

目次

屋根入力の流れ	2
軒高基準点	3
屋根入力のルール	4
屋根入力例	7
①片流れ屋根	9
②切妻屋根	10
③寄棟屋根	11
④段違い屋根	12
⑤異勾配屋根	13
⑥入母屋屋根	13

屋根入力の流れ

Walk in home Plus で屋根を手入力する場合、1枚ずつ屋根を入力していきます。屋根入力の流れは、下記ようになります。

屋根形状の入力



軒高基準点の位置の確定



流れ方向の確定

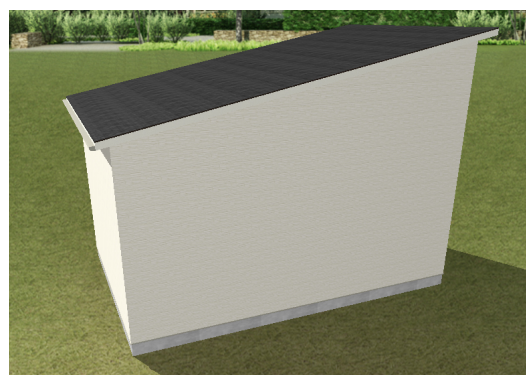
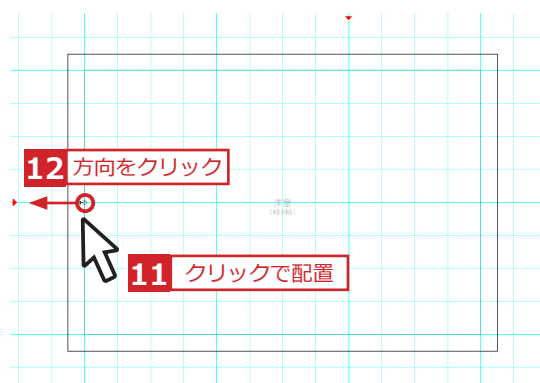
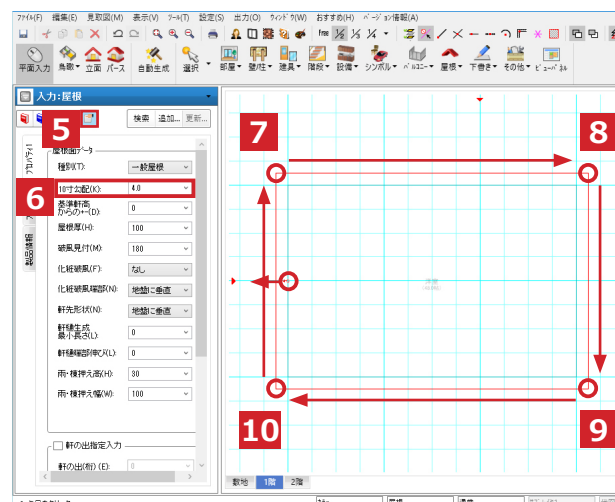
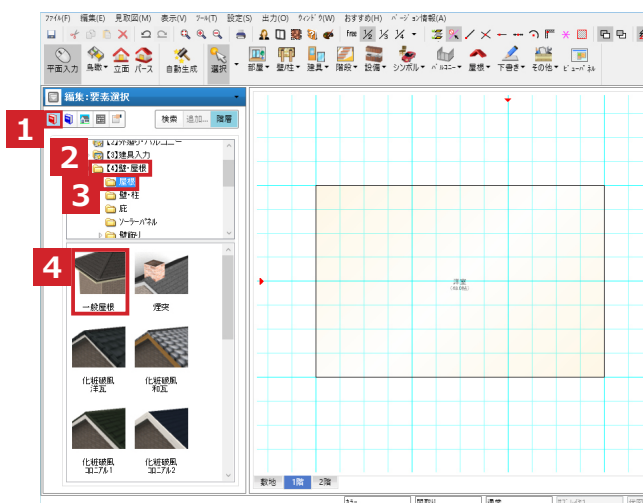
屋根を入力してみましょう。

- 1「基本辞書」の2「【4】壁・屋根」の3「屋根」から4「一般屋根」をクリックします。
- 5「プロパティ」をクリックし、6任意の勾配に設定します。

屋根の形状を入力し（7～10）、

- 11 軒高基準点を外周ラインでクリックし、
- 12 流れ方向を指示します。

片流れの屋根が入力できました。

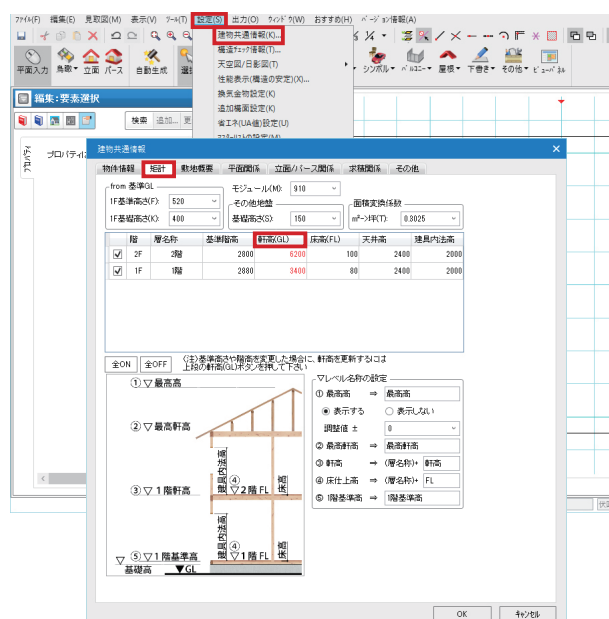
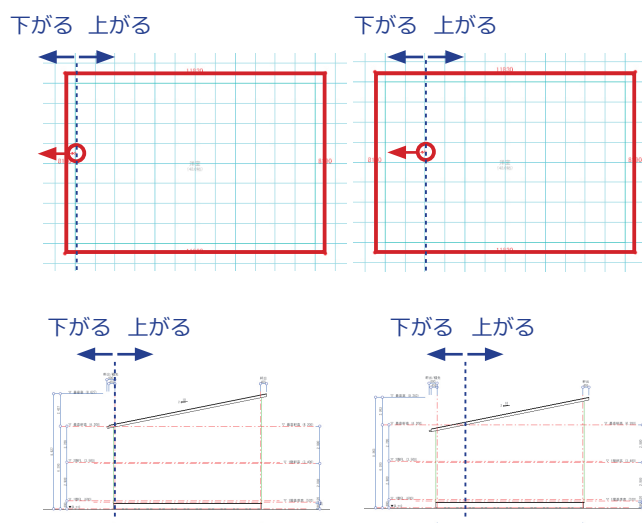


軒高基準点

屋根は決められた勾配で傾いています。
 屋根伏図において、軒高基準点は  のように表記され、丸の中心が桁の位置、三角が流れ方向を示します。
 基本的に軒高基準点は建物の外周ラインになります。

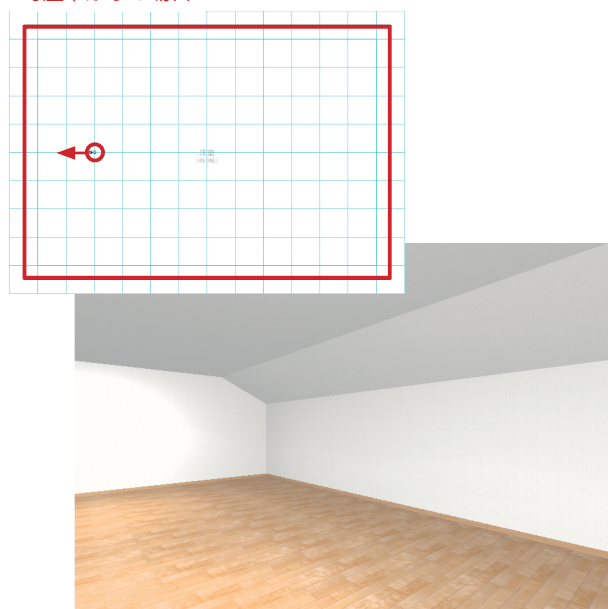
+ 補足

軒高基準のラインの高さは、「設定」の「建物共通情報」の「矩計」の「軒高」の高さになります。



母屋下がり屋根の場合は、桁が部屋の内側になるため、軒高基準点の位置も部屋側に配置します。

母屋下がりの場合



屋根入力ルール

屋根を入力するにあたって、いくつかのルールがあります。ここでは、5つのルールを確認していきます。

ルール1

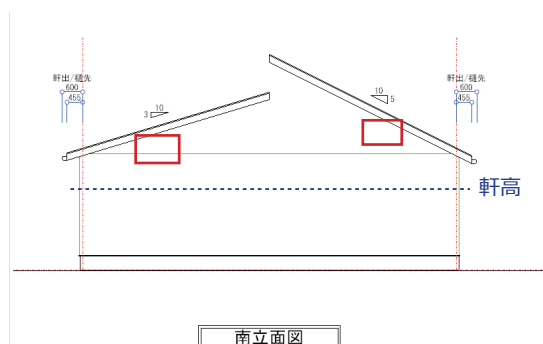
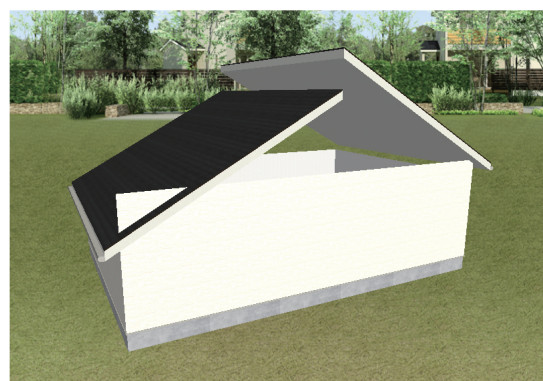
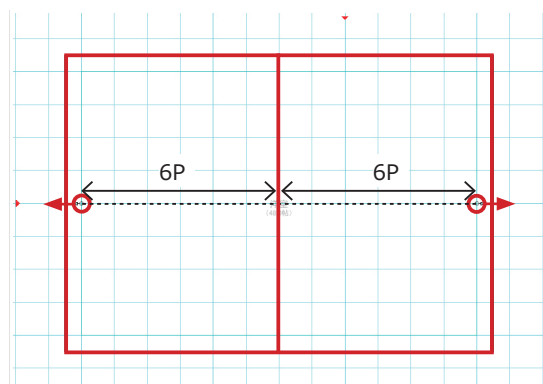
『それぞれの屋根の接する部分がそれぞれの軒高基準点からの距離が同じであること』

軒高基準点が同距離にないと、棟が合わなくなり、パースで壁が飛び出した状態になります。

⚠ 注意

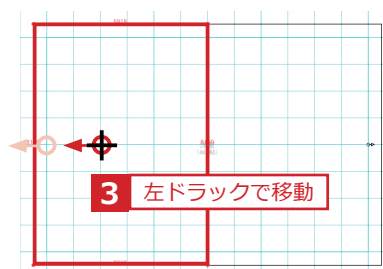
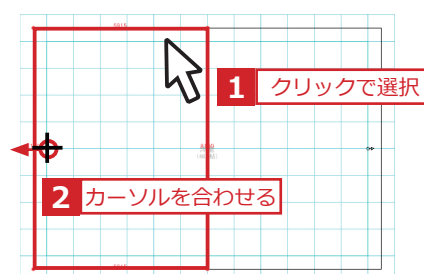
それぞれの屋根の勾配が同じであることが条件です。

勾配が異なる場合は、軒高基準点の距離が同じでも高さが一致しません。



屋根を入力したあとに、軒高基準点の位置を変更することもできます。

- 1 屋根をクリックします。
- 2 軒高基準点にカーソルを合わせます。
- +
- 3 左ドラックで移動します。

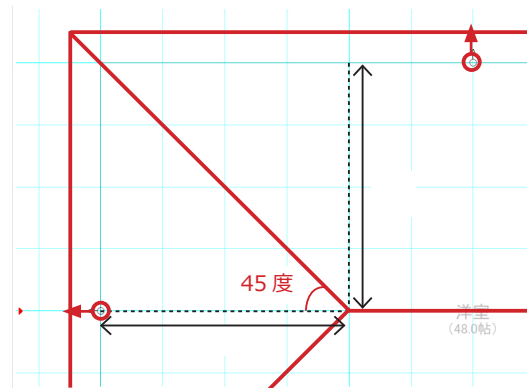


ルール2

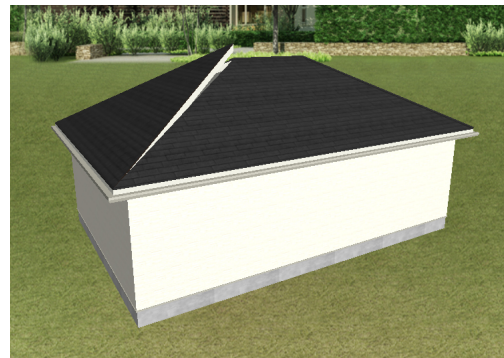
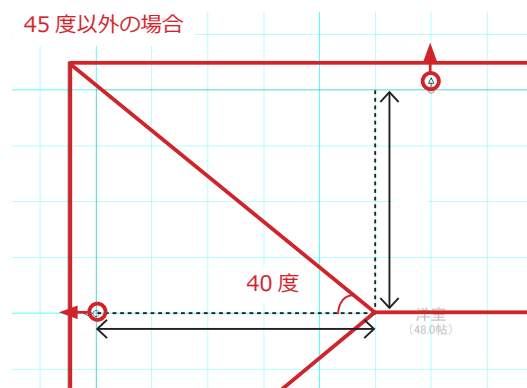
『軒高基準点の方向が 90 度異なる屋根が接する場合は、接する辺が 45 度であること』

角度が 45 度であり、且つ、基準点を同距離に配置するときちゃんと棟が合います。

45 度以外だと、基準点からの距離が合わなくなり、パースで棟が合ってきません。



45 度以外の場合

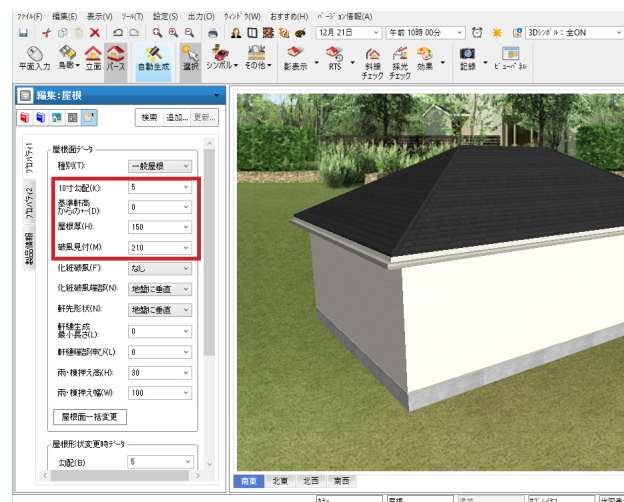


ルール3

『屋根の厚みなどが同じでなくてはならない』

- ・「10 寸勾配」
- ・「基準軒高からの + -」
- ・「屋根厚」
- ・「破風見付」

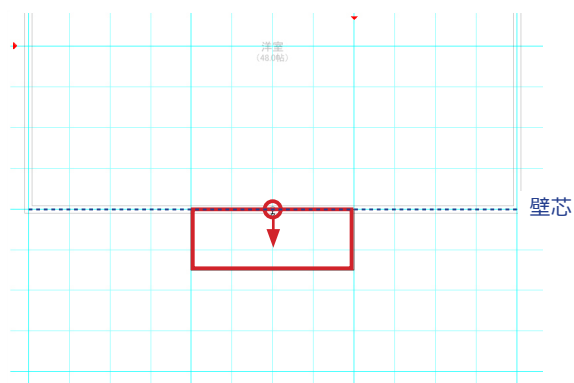
の数値がどの屋根も同じである必要があります。



ルール 4

『ポーチ屋根など、建物に接する屋根は壁芯で入力すること』

軒高基準点も壁芯で入力します。

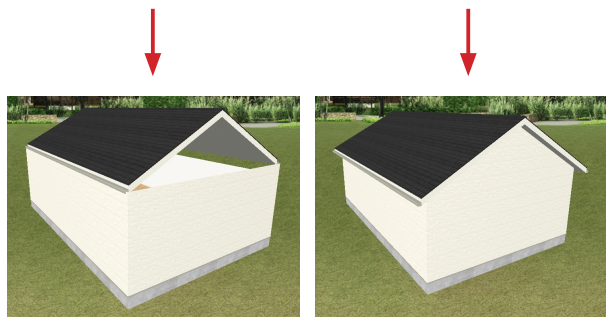
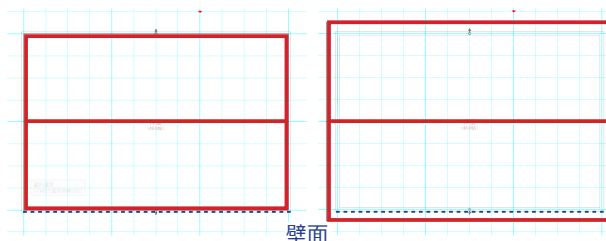


ルール 5

『屋根の軒の出の部分は壁面よりも外側で入力すること』

壁は自動的に屋根まで立ち上がってきます。そのため、屋根で壁をきちんと止める必要があります。

壁面よりも内側に屋根を入力すると、壁がきれいに立ち上がってきません。

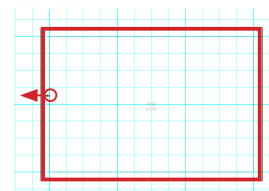
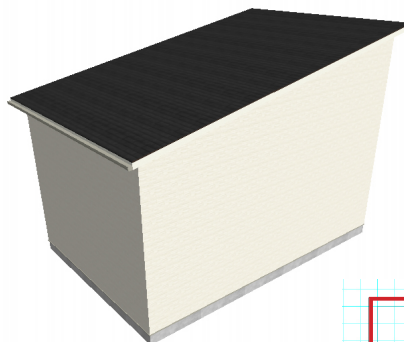


屋根入力例

屋根形状とその名称を把握しましょう。
平面図は、Walk in home で入力した際の
平面表記になります。

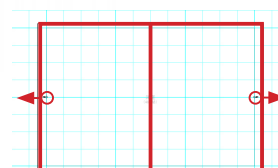
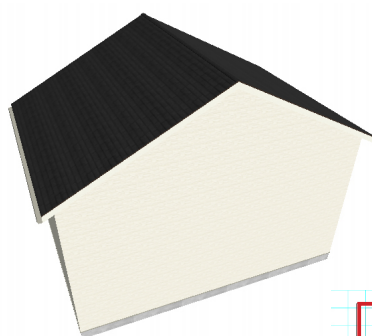
①片流れ屋根

一方向だけに傾く屋根。



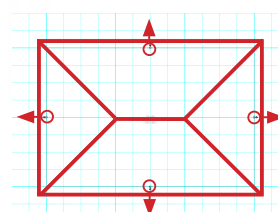
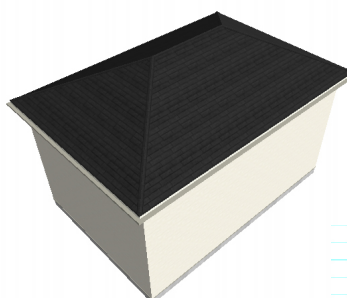
②切妻屋根

ふたつの傾斜面が山形に合わさった形の
屋根。



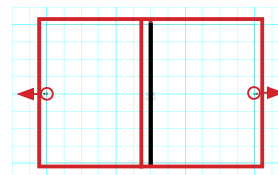
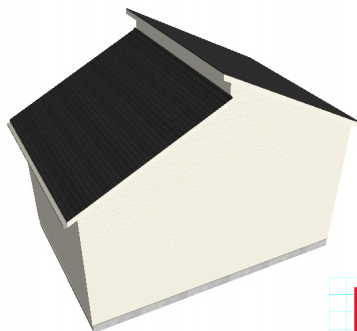
③寄棟屋根

4 方向に傾斜する屋根で構成された屋根。
4 つの屋根は横から見ると台形と三角形に
なります。



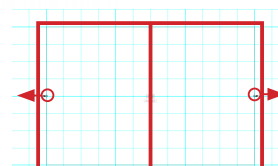
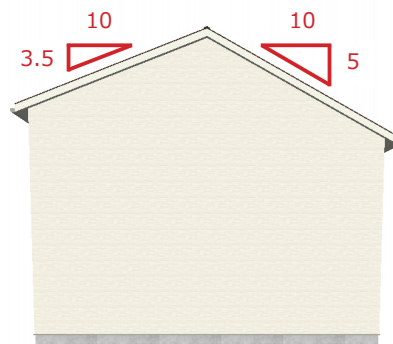
④段違い屋根

切妻屋根の一方が短く一方は長い屋根。
招き屋根とも呼ばれます。



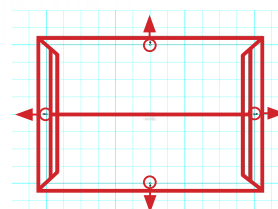
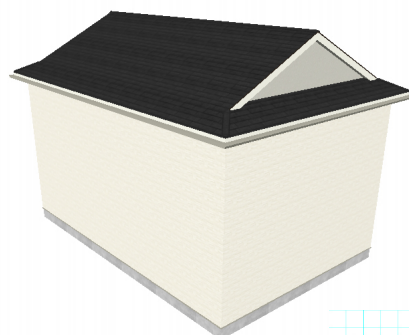
⑤異勾配屋根

異なる勾配の屋根で構成されている屋根。



⑥入母屋屋根

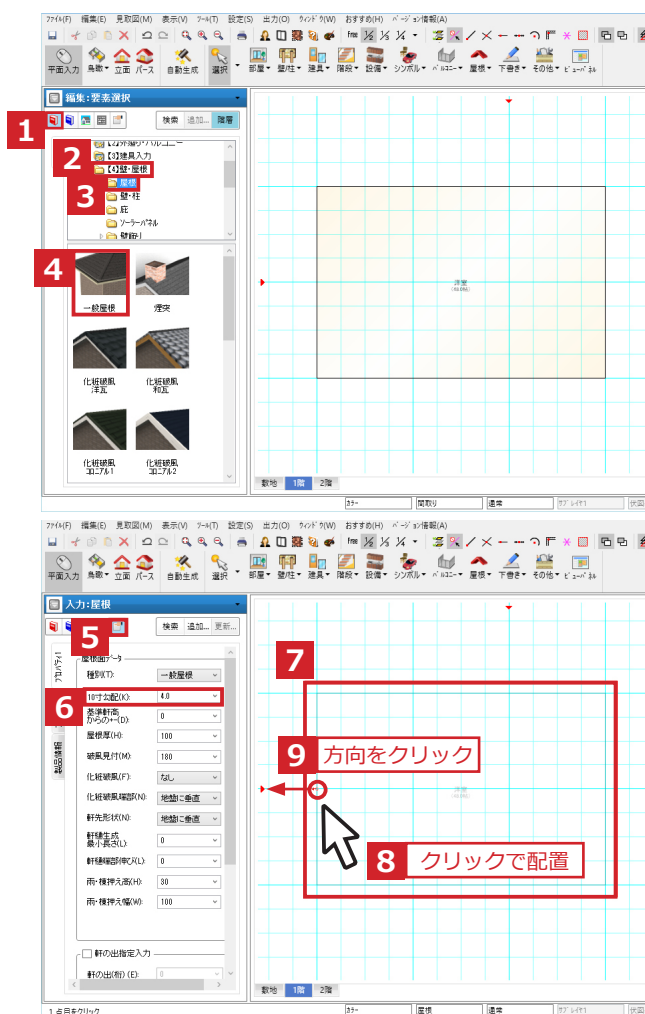
寄棟屋根と切妻屋根を合わせた屋根。
屋根の上部は二方向に傾斜を持つ山形の切妻
屋根の形、屋根の下部は妻部分にも屋根を
設けた寄棟屋根の形になっています。



①片流れ屋根

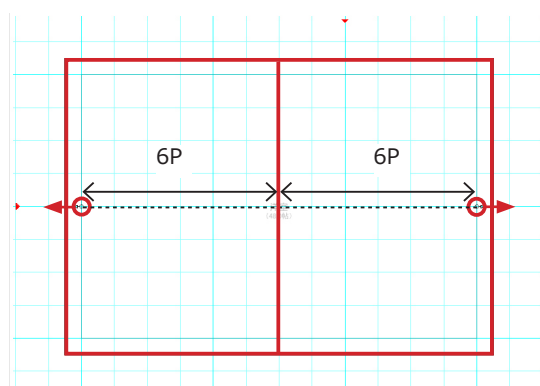
- ※
- 1 「基本辞書」の2 「【4】壁・屋根」の3 「屋根」から4 「一般屋根」をクリックします。
 - 5 「プロパティ」をクリックし、6 任意の勾配に設定します。
 - 7 屋根の形状を入力後、8 軒高基準点をクリックで配置し、9 流れ方向を指示します。

屋根入力の手順 以降※で省略



②切妻屋根

※の手順で屋根を2枚入力します。
軒高基準点が棟から同距離になるよう配置します。



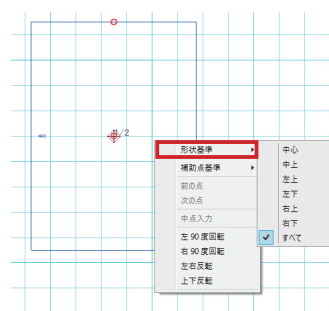
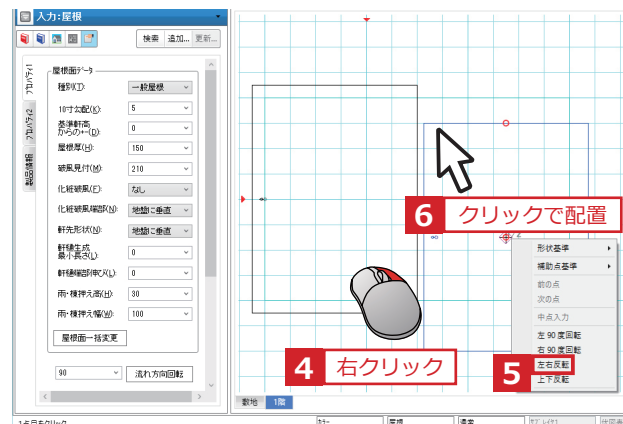
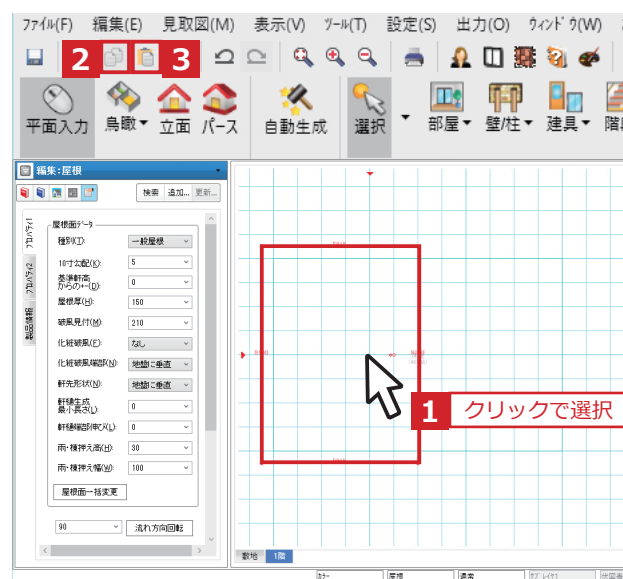
左右（上下）対称の切妻屋根の場合は、1 枚目に入力した屋根をコピーし、反転して貼り付けることもできます。

- 1 入力した屋根をクリックします。
- 2 「コピー」、3 「貼り付け」 の順にクリックします。

- 4 右クリックでポップアップメニューを開き、5 「左右反転」をクリックし、屋根を反転します。
- 6 クリックで配置します。

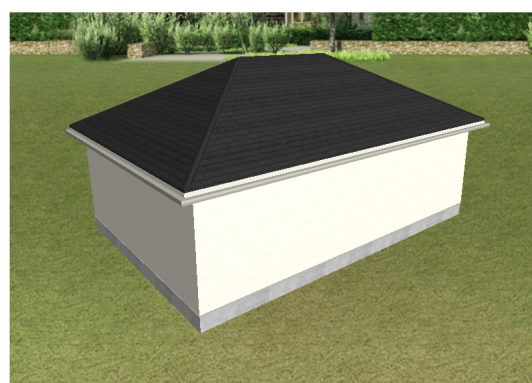
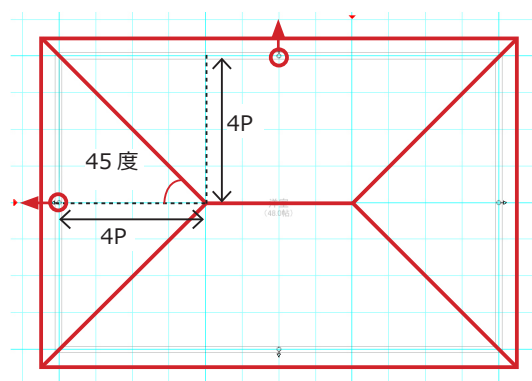
+ 補足

配置しづらい場合は、ポップアップメニューより基準点を変更することができます。



③寄棟屋根

※の手順で屋根を4枚入力します。
屋根どうしが接する斜めのラインは必ず45度で入力します。

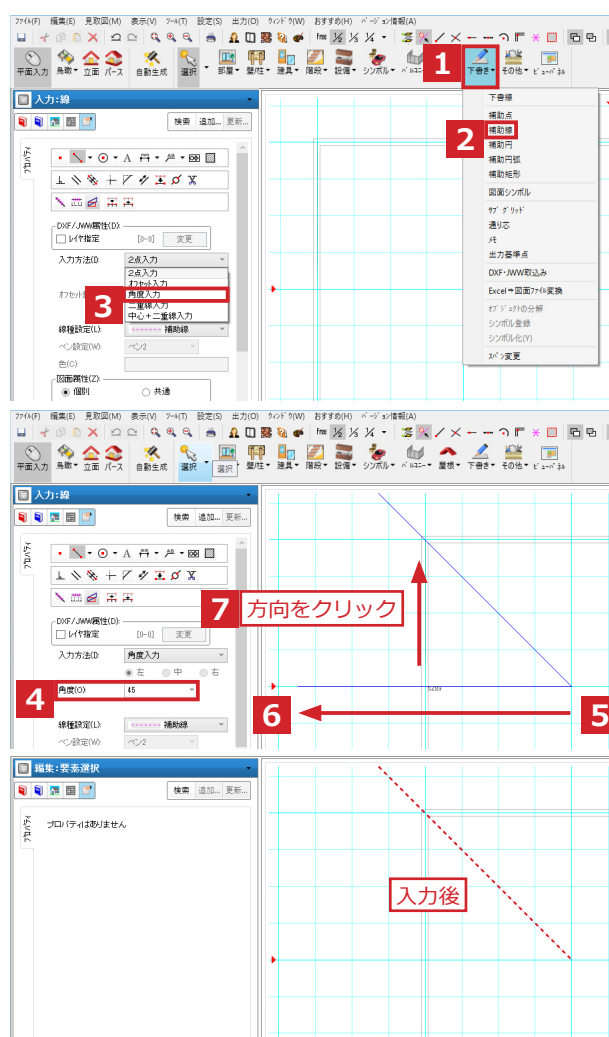


最初に45度の補助線を引くことで、屋根の入力がしやすくなります。

1「下書き」から2「補助線」を選択します。

「プロパティ」より3「入力方法」を「角度入力」に変更し、4「角度」を「45」に設定します。

基準となるラインを2点指示し（5, 6）、7方向をクリックします。



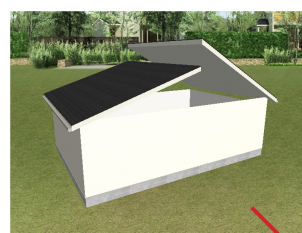
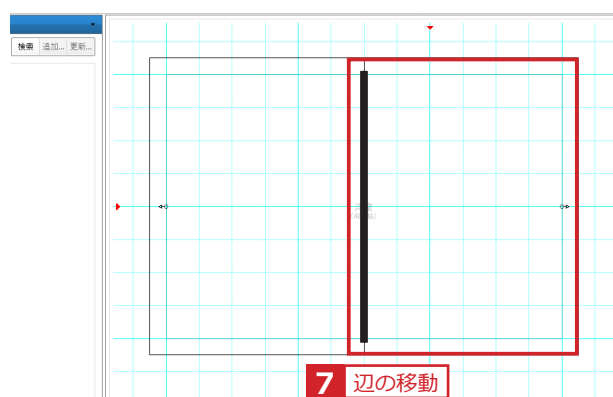
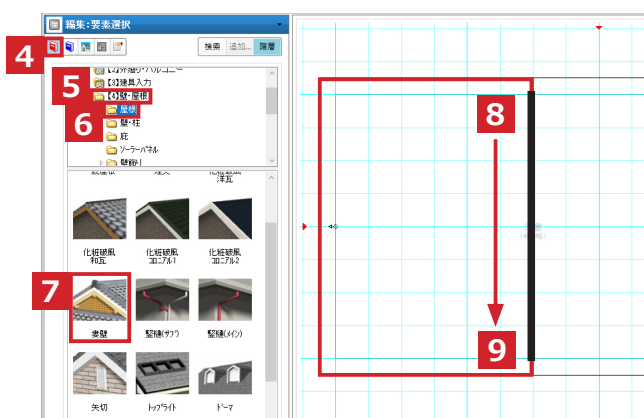
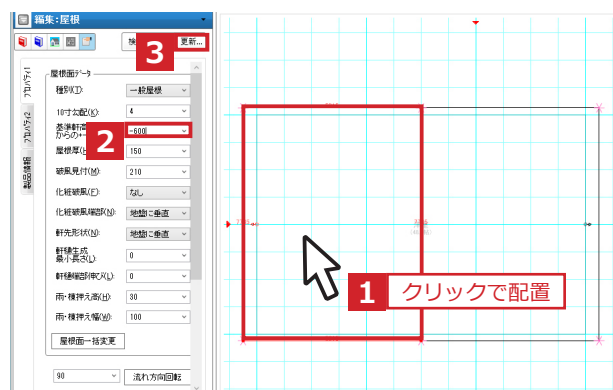
④段違い屋根

※の手順で屋根を2枚入力します。
段違いの屋根には、妻壁の入力が必要です。

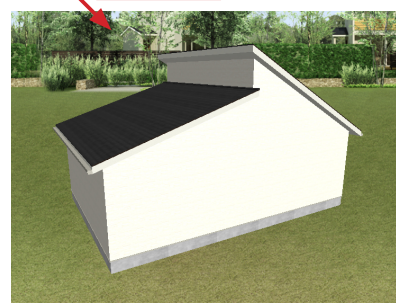
1 片方の屋根をクリックし、2 「プロパティ」の「基準軒高からの+-」より、屋根の高さを下げ、3 「更新」をクリックします。

4 「基本辞書」の5 「【4】壁・屋根」の6 「屋根」から7 「妻壁」をクリックし、低いほうの屋根のラインに入力します。(8, 9)

高いほうの屋根の軒が妻壁をこえるように、10 左ドラッグで辺の移動を行います。



妻壁入力後

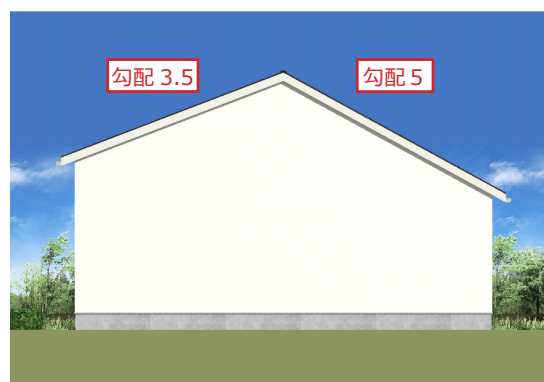
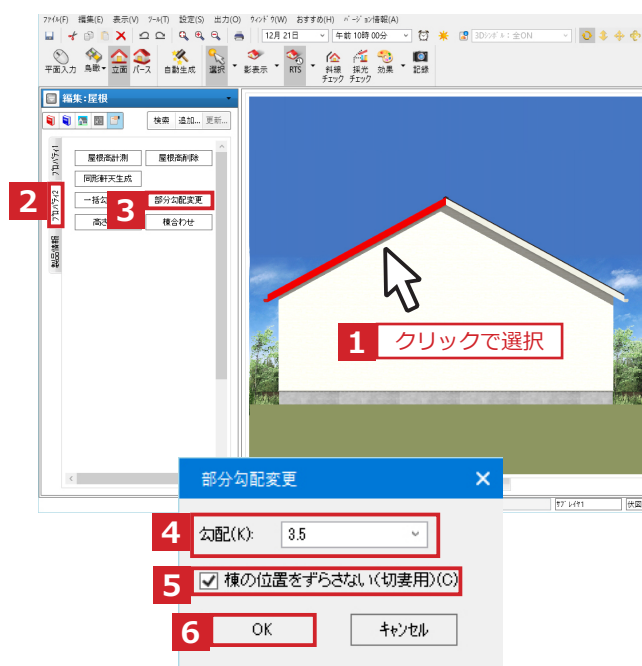


⑤異勾配屋根

異勾配の屋根を入力する場合も、一度同勾配で屋根を入力し、後から勾配を変更します。
※の手順で屋根を2枚入力します。

- 1 勾配を変更したい屋根をクリックし、
- 2 「プロパティ 2」を開きます。
- 3 「部分勾配変更」をクリックし、
- 4 任意の勾配を入力します。

切妻の場合は、5 「棟の位置をずらさない(切妻用)」にチェックを入れ、6 「OK」をクリックします。



⑥入母屋屋根

入母屋の屋根伏図は右図のようになります。
屋根の形状、軒高基準点の位置に注意して
※の手順で屋根を4枚入力します。

入母屋屋根の場合は、妻壁を入力しなくても自動で妻側に壁が立ち上がります。

